

Japanese Utility Model Laid-Open Publication No. 50-53322

Laid-Open Date: May 22, 1975

Japanese Utility Model Application No. 48-107330

Filing Date : September 13, 1973

Inventor and applicant: Yoshiji OGURA

### BOX FOR PACKING

A box for packing of the present invention comprises a box main body (1) of rectangular sleeve form and a lid member (2) located on the top of the box main body (1). The boxy main body (1) can be assembled from a sheet of paper board. The edge part of the lid member (2) is connected to the top part of a back wall (5) constituting the box main body (1), whereby the lid member (2) can open and close. A tongue piece (8) of trapezoid form is formed at the top center part of a front wall (3) of the box main body (1) such that it protrudes forwardly and is folded back. A foldout piece (32) is formed in the inner side of a lid front wall (34) of the lid member (2) at a position corresponding to the position of the tongue position (8) so that the foldout piece (32) can engage with the tongue position (8).

**THIS PAGE BLANK (USPTO)**

⑤ Int. Cl.<sup>2</sup>  
B 65 D 5/18  
B 65 D 5/10

⑤ 日本分類  
132 C 02  
132 C 12

① 日本国特許庁  
公開実用新案公報

① 実開昭50-53322

庁内整理番号 7123-38  
7123-38

③ 公開 昭50(1975)・5.22

審査請求 有 (全3頁)

④ 包装用箱

② 実 願 昭48-107330

② 出 願 昭48(1973)9月13日

⑦ 考 案 者 出願人に同じ

⑦ 出 願 人 小倉吉治  
西宮市南昭和町7の2 阪急西宮  
マンション710

⑦ 代 理 人 弁理士 梅村明

⑤ 実用新案登録請求の範囲

一枚の紙から組立てるようにした角筒状の箱本体1と、その頂部に一部を前記箱本体1を構成する後壁5と連続させ仰開を自在とした蓋2とを組合わせてなる包装用箱において、前記箱本体1の前壁3の上端中央部に台形状の係止舌片8を突出

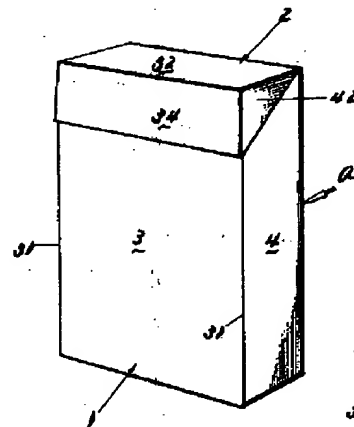
させ且つこれを前方に折り返すように形成するとともに、これと対応する蓋2の蓋前壁52の内側には前記係止舌片8に係止できる折り込み片32を形成したことを特徴とする包装用箱。

図面の簡単な説明

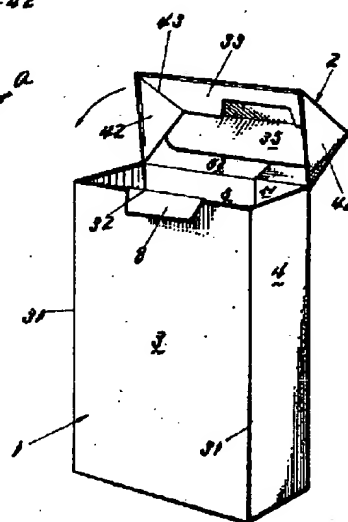
図は本考案の実施例を示すもので第1図は蓋を閉止した状態の斜視図、第2図は蓋を開放した状態の斜視図、第3図は展開図、第4図は組立て状態を示す斜視図、第5図は蓋の一部を切欠して示す斜視図である。

a……箱体、1……箱本体、2……蓋、3……前壁、31、32……折曲線、4……側壁、41……折曲線、5……後壁、51……糊代、8……係止用舌片、33……折込み片、34……蓋前壁、35……差し込み片、42……蓋側壁、43……折曲線、52……蓋後壁、9……裂溝。

第1図

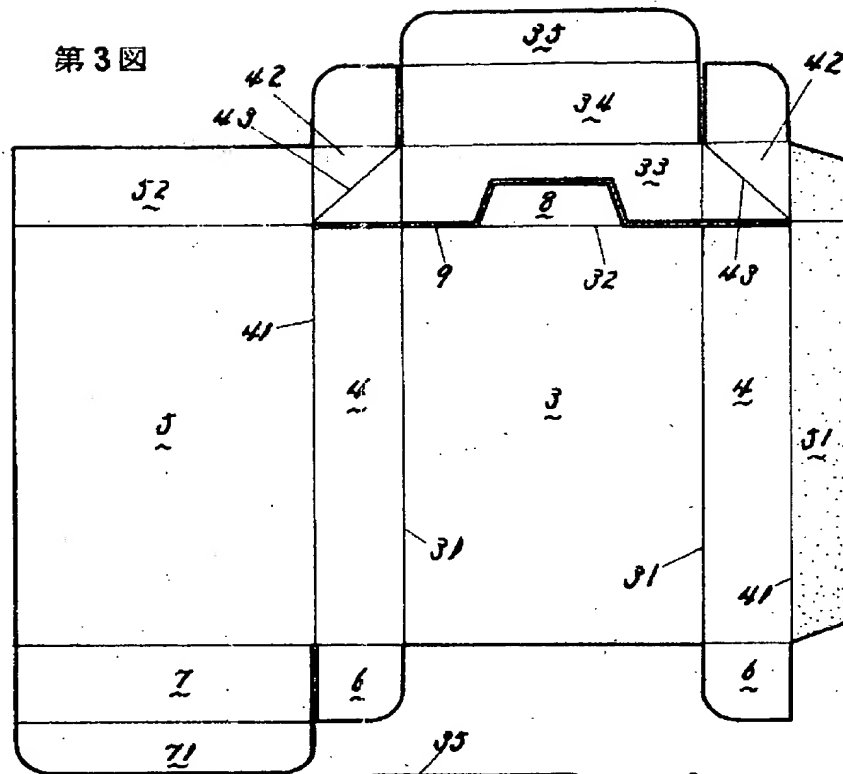


第2図

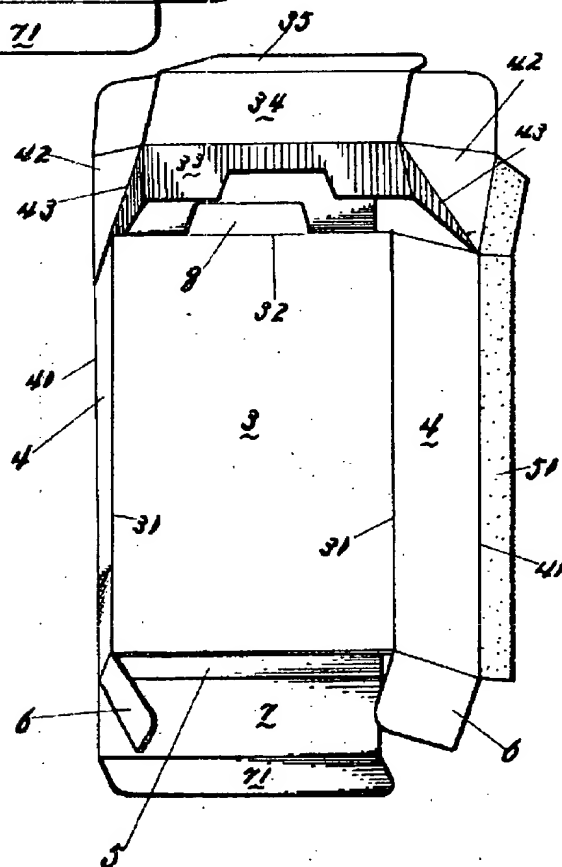


**THIS PAGE BLANK (USPTO)**

第3図

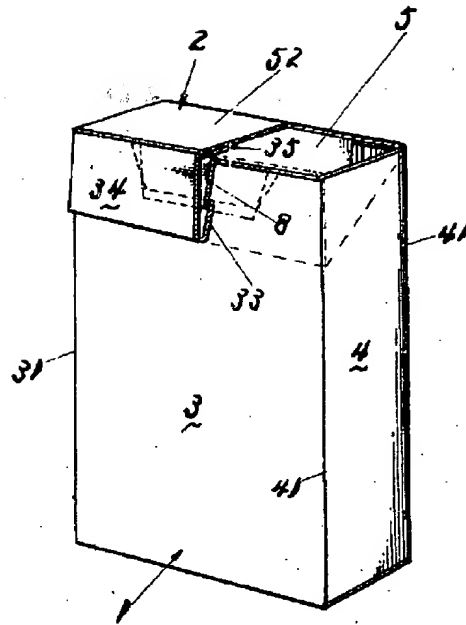


第4図



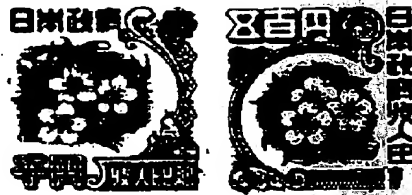
**THIS PAGE BLANK (USPTO)**

第5図



**THIS PAGE BLANK (USPTO)**





(1,500)

## 実用新案登録願

昭和48年 9月13日

特許庁長官 斎藤英雄 殿

1. 考案の名称 竹 竹 竹 竹  
包 装 用 箱

2. 考 案 者

住 所 出願人と同じ  
氏 名

3. 実用新案登録出願人

郵便番号 6 6 2  
住 所 兵庫県西宮市南昭和町7の28  
氏 名 阪急西宮マンション710  
小 倉 吉 治

4. 代 理 人

郵便番号 1 0 1  
住 所 東京都千代田区神田須田町1丁目19番地  
氏 名 弁理士 (3853) 梅 村  
電話(255)2531(代表)

5. 添付書類の目録

|     |         |   |   |
|-----|---------|---|---|
| (1) | 明 細 書   | 1 | 通 |
| (2) | 図 面     | 1 | 通 |
| (3) | 願書副本    | 1 | 通 |
| (4) | 委任状     | 1 | 通 |
| (5) | 出願審査請求書 | 1 | 通 |

式 査



48-107330

## 明 細 書

### 1. 考案の名称 包装用箱

### 2. 実用新案登録請求の範囲

一枚の紙から組立てるようにした角筒状の箱本体(1)と、その頂部に一部を前記箱本体(1)を構成する後壁(5)と連続させ仰開を自在とした蓋(2)とを組合わせてなる包装用箱において、前記箱本体(1)の前壁(3)の上端中央部に台形状に係止舌片(8)を突出させ且つこれを前方に折り返すように形成するとともに、これと対応する蓋(2)の蓋前壁(4)の内側には前記係止舌片(8)に係止できる折り込み片(8a)を形成したことを特徴とする包装用箱。

### 3. 考案の詳細な説明

本考案は包装用箱特に蓋部が仰開する組立て式の包装用箱に関するものである。

本考案の目的は一枚の紙から組立てることができるとともに仰開する蓋部の閉止及び開放を簡便且つ正確に行うことのできる包装用箱を提供しようとするものである。

従来より箱体の頂部にその一部が箱体に冠着できるよう仰開を自在とした蓋を組合わせた包装用の箱は幾つか知られているが、いずれの場合においても蓋の閉止は箱体と蓋の摺擦抵抗を利用していたに過ぎないために蓋の開閉が頻繁になるに従って閉止力が弱まるという欠点を有していた。

本考案はこれらの欠点を除去することを目的とするものであり、以下に記載する考案の完成により完全にその目的を達成することができたものである。

以下本考案の実施例を図について説明する。

総括的に(a)で示す箱体は角筒状の箱本体(1)とその頂部に一部を前記箱本体(1)と連続させて仰開自在とした蓋(2)との組合せからなっており、これらはいずれも一枚の紙を順次折曲して組立てているものである。箱本体(1)は前壁(3)の両側に折曲線(31)(31)を介して側壁(4)(4)を連設するとともに一方の側壁(4)の外側には折曲線(41)を介して後壁(5)を連設し他方の側壁(4)の外側には折曲線(41)を介して糊代(41)が連設されている。(6)(6)は側壁(5)(5)の下端に折曲自在に設けた耳片、(7)(7)は後壁(5)の下端に設けた箱本体(1)の下蓋である。(8)は前壁(3)の上端中央部に形成した台形状の係止用舌片であり、折曲線(32)を介して前方に折り返すものである。蓋(2)は前壁(3)、側壁(4)(4)、後壁(5)の上方にそれぞれ設けた蓋後壁(52)、蓋側壁(42)(42)、折込み片(33)、蓋前壁(34)、差

し込み片(35)を順次折曲して形成するものであり、前壁(3)、側壁(4)(4)の上端と蓋側壁(42)(42)、折り込み片(33)との間には組立て用の裂溝(9)が設けられている。なお前壁(3)の上端に形成した係止用舌片(8)は折り込み片(33)の一部を台形状に切り取って分離させるものであり、前記裂溝(9)は該部分において台形状に屈曲するものである。(43)(43)は蓋側壁(42)(42)斜に設けた折り曲げ線である。

本考案は叙上のように角筒状とした箱本体(1)の前壁(3)の上端に台形状の係止用舌片(8)を前方に折り返して形成し、これと対応する蓋(2)の折り込み片(33)と係合するように構成したので、第2図例示のように組立てられた箱体(a)は箱本体(1)の頂部に仰開を自在として連続させた蓋(2)を矢印で示すように枢動させて箱本体(1)に冠着すると、前壁(3)の

上端に前方に折り返した台形状の係止用舌片(8)の先端部が蓋(2)の前面内側に折り込んだ折り込み片(33)と蓋前壁(34)の中間に挿入係止されて蓋(2)の閉止を正確に行うことができる。(第5図参照)また蓋(2)の開放に際しては蓋(2)の開放運動が箱本体(1)と蓋(2)の連続部を枢線とした円弧運動によって行われるので係止用舌片(8)の折り返しが多少起き上がるだけでその係合が開放されるものであり、蓋(2)の閉止、開放を繰り返しても係止用舌片(8)の弾力性は失われることがないという特徴がある。

#### 4. 図面の簡単な説明

図は本考案の実施例を示すもので第1図は蓋を閉止した状態の斜視図、第2図は蓋を開放した状態の斜視図、第3図は展開図、第4図は組立て状態を示す斜視図、第5図は蓋の一部を切欠して示

す斜視図である。

(a) … 箱体 (1) … 箱本体 (2) … 蓋 (3) … 前壁

(31) (32) … 折曲線 (4) … 側壁 (41) … 折曲線 (5) … 後壁

(61) … 糊代 (8) … 係止用舌片 (83) … 折込み片

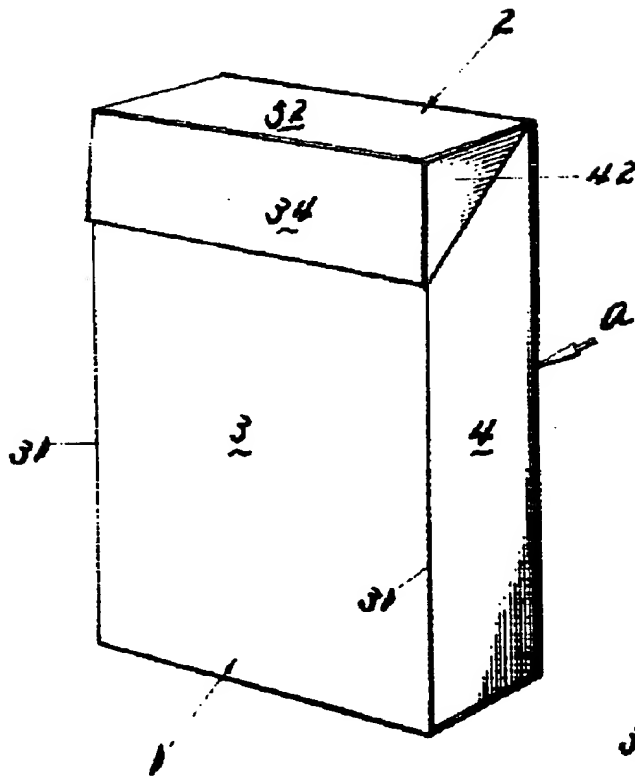
(34) … 蓋前壁 (35) … 差し込み片 (42) … 蓋側壁

(43) … 折曲線 (52) … 蓋後壁 (9) … 裂溝。

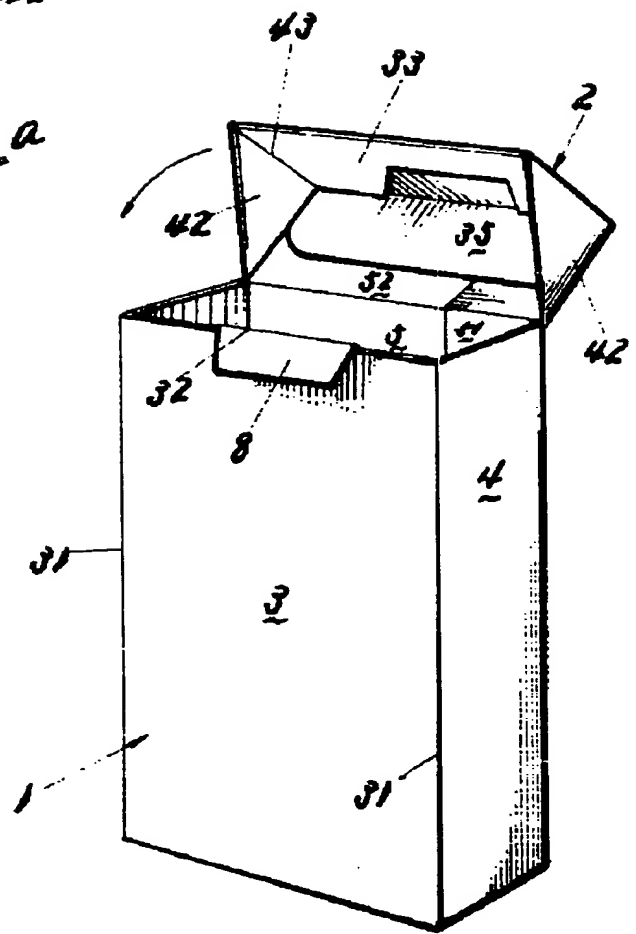
実用新案登録出願人 小 倉 吉 治

代理人 井 理 士 梅 村 明

第 1 圖



第 2 圖



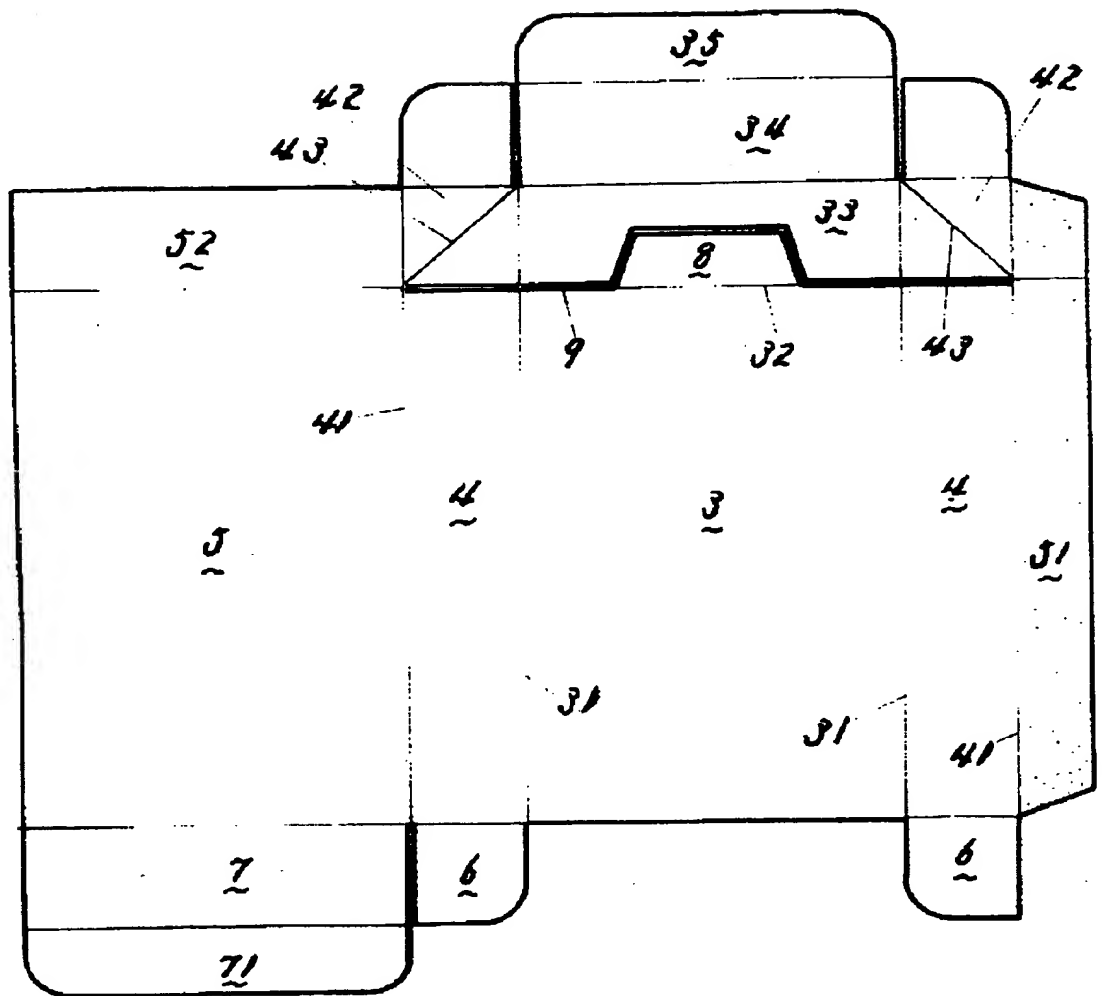
53 322  $\frac{1}{3}$

代理人 井理士

梅 村 明



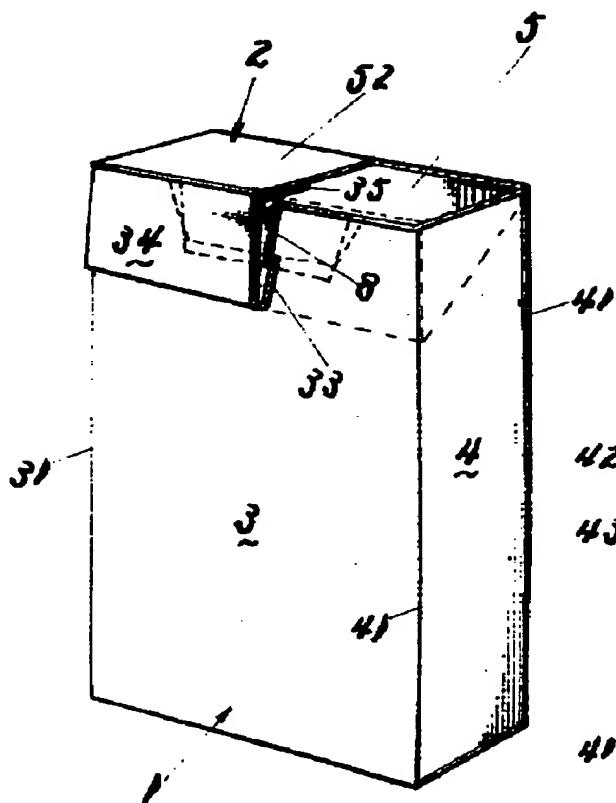
第 3 図



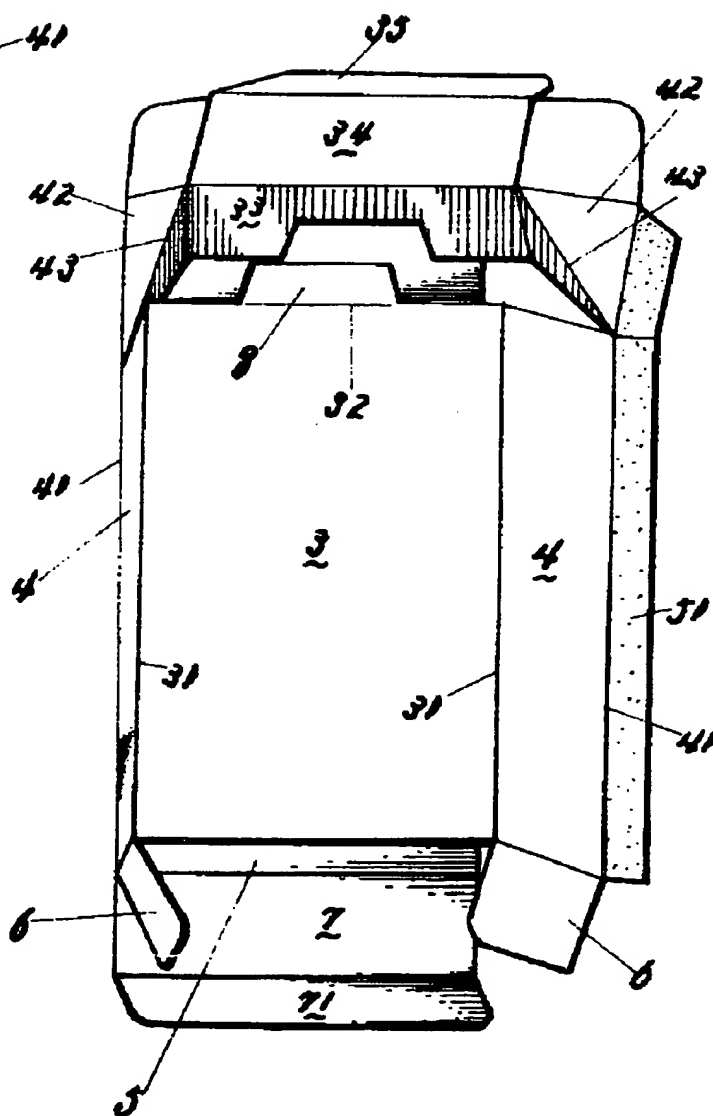
代理人 井理士

梅 村 明

第 5 图



第 4 图



3/3

代理人 弁理士

梅 村 明